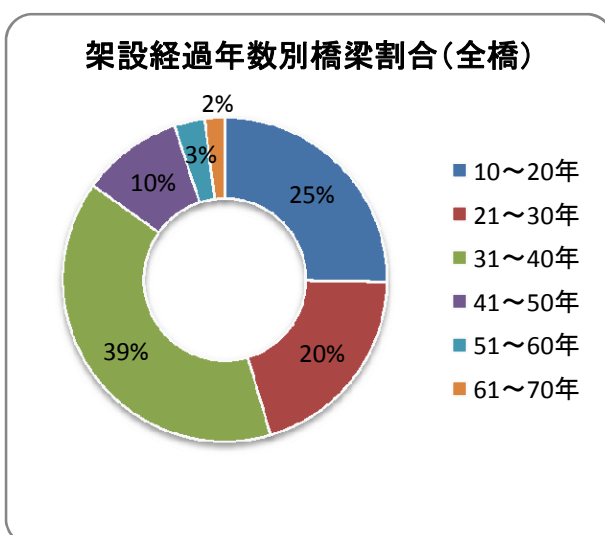
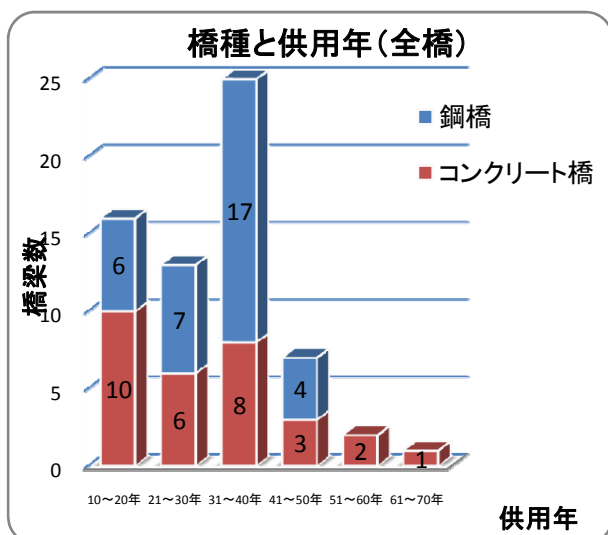
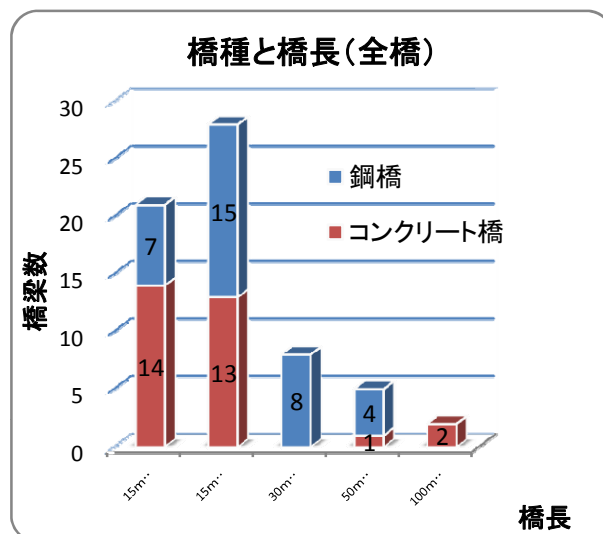
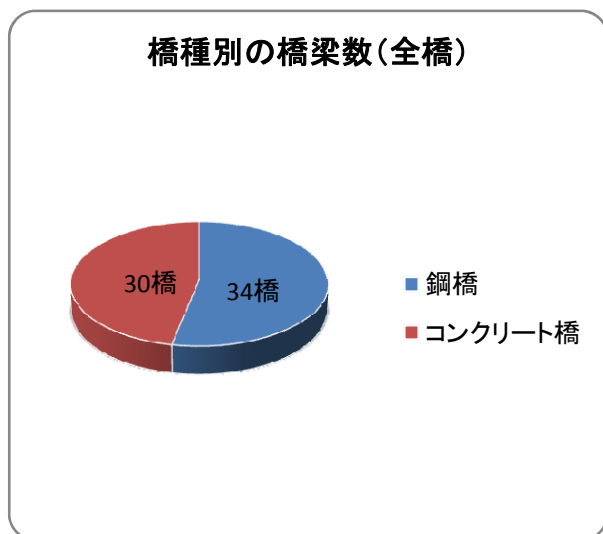


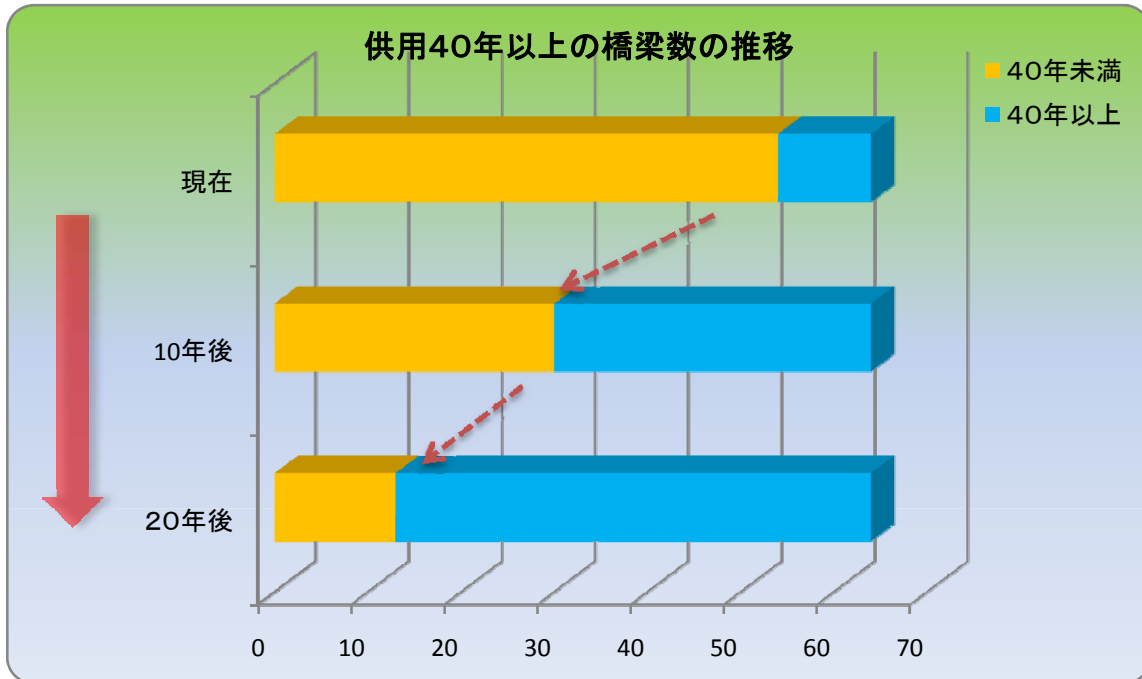
1. 点検した橋梁の概要

- 点検した64橋のうち、コンクリート橋は30橋、鋼橋は34橋であり、鋼橋が53%を占める。
- 橋長は15m未満が21橋、15m以上が43橋であり、100m以上の長大橋が2橋ある。
- 供用年は20年以下の橋梁が16橋で、20年以上の橋梁が半数以上を占める。
- 供用年不明橋(コンクリート橋)が7橋あり、橋長15m未満、供用年は概ね30年以上経過として集計する。



2. 供用40年以上の橋梁数の推移

- 供用40年以上の橋梁は現在10橋であるが、10年後には34橋、20年後には51橋と増加する。
- 20年後には80%の橋梁が供用40年以上と増加する。

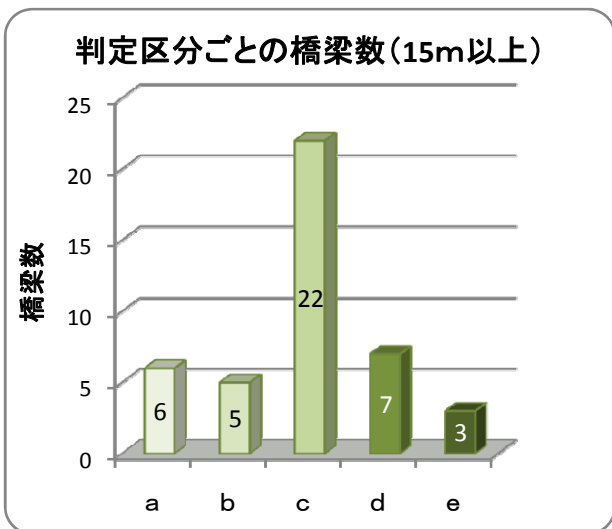
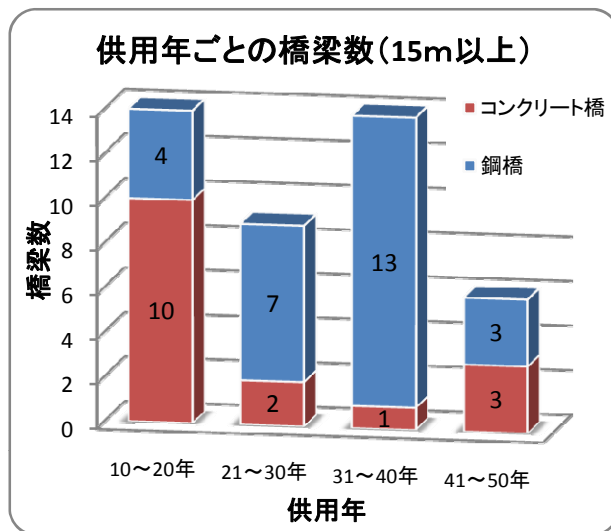
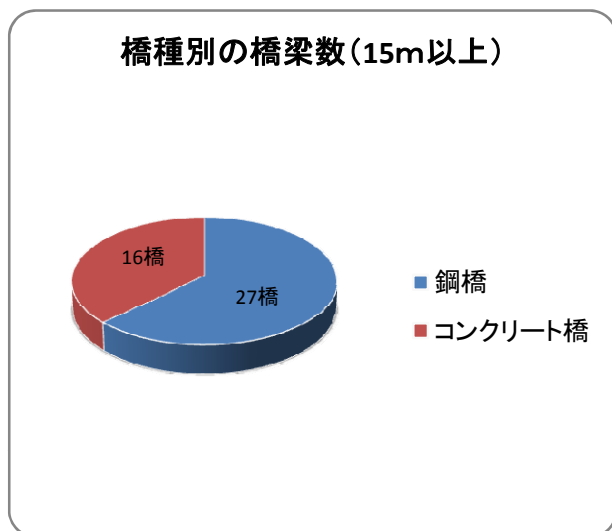


供用40年を超える橋梁数の推移

| | 現在 | 10年後 | 20年後 |
|-------|----|------|------|
| 40年未満 | 54 | 30 | 13 |
| 40年以上 | 10 | 34 | 51 |

3. 橋長15m以上の点検結果

- 橋長15m以上の橋梁は43橋あり、コンクリート橋は16橋、鋼橋は27橋である。
- 供用年は10年から40年までに多くが存在している。
- 点検による判定区分では、追跡調査が必要な「c」ランクの橋梁がもっとも多いが、補修の検討が必要な「d」、「e」ランクの橋梁が10橋存在する。



4. 橋長15m未満の点検結果

- 橋長15m未満の橋梁は21橋あり、コンクリート橋は14橋、鋼橋は7橋である。
- 供用年は31年以上40年が11橋と5割以上を占める。
- 点検による判定区分では、追跡調査が必要な「a～c」ランクの橋梁が多いが、補修の検討が必要な「d」、「e」ランクの橋梁が5橋存在する。
- 供用年不明橋(コンクリート橋)が7橋あり、橋長15m未満、供用年は概ね30年以上経過として集計する。

